

令和6年度

病虫害発生予察情報

第18号

7月月報

北海道病虫害防除所 令和6年(2024年)8月16日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

ー太平洋側で昨年に次ぐ記録的な高温。下旬は日本海側で顕著な大雨。ー

7月は、高気圧に覆われやすい時期があり、太平洋側では湿った気流による低い雲の影響を受けにくかったため、北海道地方と太平洋側で日照時間がかなり多かった。日照時間の多さに加えて、暖かい空気に覆われやすく、さらに南から暖かい空気が流れ込みやすい時期もあったため、北海道地方と全ての地域で気温はかなり高くなった。太平洋側の月平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降高い方から第2位となり、昨年に次ぐ記録的な高温となった。一方で、下旬には低気圧と前線の影響により日本海側を中心に大雨となった日があったため、北海道地方の月降水量は多かった。

上旬：発達した低気圧や上空の寒気の影響でまとまった雨の降った所もあったが、低気圧や湿った空気の影響を受けにくかった。このため、日照時間はオホーツク海側と太平洋側で多かった。気温は、暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方、オホーツク海側、太平洋側でかなり高くなった。太平洋側の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降7月上旬として高い方から第1位となった。

中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間はかなり多かった。さらに暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高かった。太平洋側の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降7月中旬として高い方から第1位となった。また、低気圧や湿った空気の影響を受けにくかったため、北海道地方と日本海側の降水量は少なく、太平洋側ではかなり少なかった。

下旬：低気圧や前線の影響を受けやすく、日本海側と太平洋側西部を中心に広い範囲で大雨となった日があった。特に24日は旭川市江丹別で日降水量が180.5mmと、1977年の統計開始以降多い方から第1位を観測した。このため、北海道地方と全ての地域で降水量はかなり多く、特に、日本海側の旬降水量の平年比は、1946年の統計開始以降7月下旬として多い方から第2位となった。気温は、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、太平洋側でかなり高かった。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+2.7	か高	129	多	127	か多
日本海側10 地点平均	+1.9	か高	152	多	113	多
オホーツク海側4 地点平均	+2.8	か高	147	多	132	多
太平洋側8 地点平均	+3.5	か高	91	並	142	か多

注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

Ⅱ. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期（本田） やや早 発生量 やや多

＜7月23日付け注意報第8号＞

予察田の「きらら397」における本田での初発期は、北斗市で平年より早く、比布町と岩見沢市で平年よりやや早かった。予察田の「きらら397」における葉いもちの発生量は、比布町で平年より多く、北斗市で平年よりやや多く、岩見沢市で平年より少なかった。

一般田における巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	7月1日	6月25日	7月16日	7月20日	10
	ななつぼし	6月28日	6月25日	7月19日	7月18日	10
比布町	きらら397	6月16日	6月23日	7月10日	7月14日	10
	ななつぼし	6月15日	6月24日	7月12日	7月13日	8
北斗市	きらら397	6月14日	6月20日	7月5日	7月12日	10
	ななつぼし	6月13日	-	7月5日	-	-

注1) 北斗市「ななつぼし」は平年値なし

注2) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.1	1.0	2.7	3.0	11.6	10
	ななつぼし	0	0.6	0	2.9	18.0	15.6	10
比布町	きらら397	1.0	1.4	25.0	11.1	63.0	25.0	10
	ななつぼし	0	2.3	25.0	12.1	75.0	26.9	8
北斗市	きらら397	2.0	1.6	24.0	7.5	25.0	17.3	10
	ななつぼし	5.0	－	25.0	－	36.0	－	－

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0	0	0	0	渡島	本所	1	0	0	0	0
	南東部	2	0	0	0	0	檜山	本所	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0		北部	2	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0	上川	本所	7	0	0	0	0
	北空知	7	0	0	0	0		富良野	3	0	0	0	0
石狩	本所	2	0	0	0	0		大雪	4	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0		士別	3	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	名寄	3	0	0	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	留萌	本所	4	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0		南留萌	2	0	0	0	0

2. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：やや早、セジロウンカ：早 発生量 やや多

予察灯におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町及び比布町で平年並であった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町で平年並、比布町で平年よりやや遅かった。

予察灯による成虫誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町及び比布町では平年より少なかった。予察田におけるすくい取りによる捕獲数は、長沼町及び北斗市で平年より多く、比布町では平年よりやや少なかった。

予察灯におけるセジロウンカの初発期は、長沼町、比布町及び北斗市いずれの地点においても平年より早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、比布町及び北斗市で平年より早く、長沼町で平年よりやや早かった。

予察灯における成虫誘殺数は長沼町及び北斗市で平年より多く、比布町では平年より少なかった。予察田における水田すくい取りによる成虫捕獲数は、比布町で平年より多く、長沼町及び北斗市で平年よりやや多かった。

一般田における巡回調査によると、全72地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	5	1.6	3	1.6	0	3.0	0	2.5	0	1.5
2半旬	6	2.4	13	4.3	24	10.6	8.8	8.3	0	3.8	0	2.3
3半旬	0	12.2	59	12.6	132	4.2	12.5	6.6	10.0	5.3	2.5	2.8
4半旬	186	153.6	130	104.6	320	35.1	2.5	9.4	12.5	27.0	5.0	3.5
5半旬	21	49.6	29	198.6	44	24.8	30.0	18.4	90.0	49.8	27.5	8.0
6半旬	8	212.3	44	1641.4	61	36.6	18.0	15.3	30.0	132.5	10.0	7.1
初発期	7月9日	7月10日	7月4日	7月6日	7月3日	7月13日	7月9日	7月11日	7月13日	7月9日	6月28日	7月6日
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	3.9	0	0	0	0	0	3.0
2半旬	0	0	0	0	35	1.6	0	0	2.5	0	2.5	5.0
3半旬	0	0	0	0.2	2	0.6	0	0.3	0	0.5	10.0	3.0
4半旬	7	0	0	0	61	1.1	0	0	0	0	1.7	2.0
5半旬	0	0.7	2	0.2	50	2.4	0	0.1	10.0	0	7.5	0.8
6半旬	31	1.7	1	14.2	123	49.4	3.8	2.0	0	1.0	0	2.0
初発期	7月20日	7月30日	7月22日	7月31日	7月6日	7月14日	7.VI	8.I	7.II	8.II	6.VI	7.III
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及 センター		地点 数	7月6半旬		普及 センター		地点 数	7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	6	0	0.3	渡島	本所	1	0	1.0
	南東部	2	0	0	檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	2.3		北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	7	2.1
	北空知	7	2.7	0	富良野		3	1.0	1.0
石狩	本所	2	0.5	2.0	大雪		4	3.0	2.0
	北部	7	0	0.7	士別		3	0	2.0
後志	本所	4	0	1.0	名寄		3	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0	0
日高	西部	2	0	0		南留萌	2	0	0

3. イネドロオイムシ 発生量 少

予察田における幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。被害株率は、長沼町では平年並、北斗市では平年より低かった。比布町では幼虫の発生、被害とも認められなかった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、全72地点のうち、移植栽培で減収する被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害株率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	35	110.7	0	9.2	1	46.3	96.0	97.2	0	5.0	4.0	38.0
2半旬	4	86.0	0	8.2	1	32.7	100.0	100.0	0	11.4	6.0	44.4
3半旬	2	61.7	0	7.0	0.5	16.9	100.0	100.0	0	16.6	8.0	48.9
4半旬	6	34.8	0	3.2	0	8.3	92.0	100.0	0	18.9	6.0	52.2
5半旬	0	18.5	0	0.7	0	4.9	100.0	98.8	0	18.3	2.0	53.1
6半旬	2	3.6	0	0.7	0	1.2	96.0	99.2	0	10.9	4.0	50.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害葉率

普及 センター		地点 数	幼虫数		被害葉率(%)	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	8.8	0	6.7	0.5
	南東部	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0
	中空知	4	4.8	0	0	0
	北空知	7	0.3	0.7	0.9	0.7
石狩	本所	2	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0

普及 センター		地点 数	幼虫数		被害葉率(%)	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
渡島	本所	1	0	3.0	0	0
	檜山	2	0	0	0	0
上川	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
	本所	7	0	0	0	0
	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0

注) 幼虫数は25株あたり

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 やや早 発生量 やや多

<7月23日付け注意報第7号>

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で平年より早く、比布町及び北斗市で平年並であった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町で平年よりやや早かった。比布町では捕獲が認められなかった。

予察灯による成虫誘殺数は、北斗市で平年より多く、比布町で平年よりやや多く、長沼町では平年よりやや少なかった。予察田における水田すくい取りによる捕獲数は、北斗市で平年よりやや多く、長沼町で平年並であった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの「ななつぼし」の追加防除の基準である捕獲数1頭以上となった水田は、全72調査地点のうち、空知、石狩、後志、胆振、日高、上川、留萌地方の計27地点、「きらら397」及び「ゆめびりか」の追加防除の基準である捕獲数2頭以上となった水田は、空知、後志、上川、留萌地方の計15地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	20	9.2	0	1.4	59	28.1	0	0.3	0	0	0	1.3
2半旬	321	55.8	6	3.5	366	58.9	0	0.3	0	0	2.5	0.3
3半旬	280	234.5	69	8.9	198	43.4	0	0	0	1.0	0	0.8
4半旬	627	724.7	150	23.5	348	156.9	0	3.1	0	5.5	0	0.3
5半旬	215	567.7	16	33.1	163	224.9	13.0	5.9	0	2.8	7.5	1.8
6半旬	322	1028.4	77	124.6	302	178.0	6.3	6.5	0	2.8	2.5	4.4
初発日	6月29日	7月4日	7月6日	7月8日	7月3日	7月3日	7月22日	7月27日	-	7月19日	7月10日	7月26日
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り数

普及センター		地点数	畦畔				水田	
			7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0.2	0	0.2	0.3	2.7	2.5
	南東部	2	0.5	0	0.5	3.0	0	0
	南西部	3	0	9.0	2.0	6.0	0	2.0
	中空知	4	1.5	4.5	0.8	13.0	0.8	0.3
	北空知	7	2.1	0.9	8.9	1.1	6.9	0
石狩	本所	2	0	3.3	0	6.7	0.5	17.7
	北部	7	0	1.6	0	0.6	0	3.1
後志	本所	4	2.0	1.0	0.3	0.8	0.5	0.5
胆振	東胆振	4	0.3	0.8	0.3	0	0.3	0
日高	西部	2	0	0	0	0	0.5	0
渡島	本所	1	0	0	0	0	0	1.0
檜山	本所	2	0.5	1.0	8.5	0	0	0.5
	北部	2	0	0.5	0.3	0	0	0
上川	本所	7	3.4	0.4	1.4	2.0	1.3	1.0
	富良野	3	1.3	0.3	2.7	0.7	0.7	2.0
	大雪	4	1.5	0.8	1.5	2.0	1.3	0.3
	士別	3	1.7	3.3	5.3	0	1.0	0
	名寄	3	0	3.0	0	0	0	0.3
留萌	本所	4	1.3	0	0.8	1.5	1.0	0
	南留萌	2	0	0	0.5	1.0	1.0	1.0

5. フタオビコヤガ 発生量 並

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町で平年並、比布町で平年より少なかった。北斗市では誘殺が認められなかった。幼虫による予察田の被害株率は、比布町で平年より高く、長沼町で平年並であった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害株率(%)			
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	6.7	0	0.2	16	13.5	20.0	1.0
2半旬	1	1.0	0	5.2	0	0.1	8	19.0	12.0	1.0
3半旬	0	0.7	1	2.6	0	0.9	36	21.0	12.0	5.1
4半旬	0	0.5	0	2.8	0	0	64	41.3	12.0	8.0
5半旬	0	0.1	0	4.3	0	0.4	68	45.3	4.0	11.3
6半旬	2	2.6	7	71.1	0	0.2	68	62.7	0	8.7
平年数	10		10		10		4		8	

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「きたほなみ」における発生量は、長沼町では平年よりやや少なく、芽室町と訓子府町では平年より少なかった。発生菌種は、3地点とも *F. graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	きたほなみ	3.0	6.8	10	15.0	0	85.0	0
芽室町	きたほなみ	0.3	8.7	10	0	0	100.0	0
訓子府町	きたほなみ	0.2	10.4	10	25.0	5.0	70.0	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F. graminearum*、F.cul.: *F. culmorum*

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシ及びムギクビレアブラムシは、長沼町及び訓子府町いずれの地点においても発生が認められなかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.5	0	26.5	0	1.6	0	5.3
2半旬	0	1.3	0	10.9	0	1.0	0	2.4
3半旬	-	0.2	0	3.1	-	0.3	0	0.4
4半旬	-	0	0	3.6	-	0	0	1.3
平年数	10		9		10		9	

注1) 25穂あたりの寄生虫数

注2) - :調査不能

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 やや少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、比布町では平年並、長沼町では平年よりやや少なかった。発生菌種は、2地点とも *F. graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	17.7	32.4	10	15.2	12.1	72.7	0
比布町	春よ恋	2.0	2.3	9	0	25.0	75.0	0

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. とうもろこし

1. オオタバコガ 発生量 並

フェロモントラップによる誘殺数は比布町で平年並であった。その他の地点では、誘殺が認められなかった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.2	0	0.3	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	0.3	0	0.1	0	0	0	0	0	0
3半旬	0	0.5	0	0.1	0	0.1	0	0	0	0
4半旬	0	0.8	0	0.1	0	0	0	0	0	0
5半旬	0	0.4	1	0.5	0	0	0	0	0	0
6半旬	0	0.5	0	0	0	0.2	0	0	0	0
平年数	10		10		9		9		8	

E. 豆類

1. べと病(大豆) 発生期 遅 発生量 少

長沼町の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品 種 名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月26日	7月20日	0	0.2	0	1.6	0.5	10.6	10

2. 菌核病（菜豆） 発生量 少

芽室町の予察ほでの発生は確認されていない。

7月6半旬の一般ほにおける巡回調査によると、いずれの地点においても発生は認められていない。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	未発生	7月18日	0	0.9	0	3.0	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	0	0
上川	士別	1	0	0		東部	5	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	0	0
						北部	3	0	0
						西部	1	0	0

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 早 発生量 多

予察ほにおける発生期は、芽室町（菜豆）では平年より早く、長沼町（小豆）では平年よりやや早かった。発生量は、芽室町では平年より多く、長沼町では平年よりやや多かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、小豆では上川、オホーツク及び十勝地方で、菜豆では上川及び十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	7月31日	8月3日	0	0	1.0	0.7	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況（菜豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月11日	7月18日	8.5	3.1	14.0	6.3	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	0
後志	本所	1	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0	網走	網走	2	0	0
	東胆振	2	0	2.0		美幌	3	1.7	0
檜山	本所	2	0	5.0		十勝	本所	5	0.8
	北部	1	0	0	東部		6	0	0
上川	大雪	2	0	0	東北部		4	3.3	0
	士別	1	2.0	0	北部		3	1.3	0
					西部		2	0	0
					南部		7	0	0

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	1.3	1.5
上川	士別	1	14.0	5.0		東部	5	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	1.0	1.3
						北部	3	3.7	0
						西部	1	0	0

4. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほにおける被害程度は、大豆、小豆いずれも長沼町及び訓子府町で平年並であった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の被害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	8.7	4	4.2	2	4.9	1	0.5
2半旬	3	13.0	9	7.2	3	6.0	1	1.4
3半旬	4	17.4	12	11.2	3	7.7	4	2.9
4半旬	9	21.2	22	16.4	5	9.8	5	5.3
5半旬	29	29.0	26	22.8	8	13.0	5	8.7
6半旬	31	34.1	29	26.4	10	16.3	7	12.4
平年数	10		10		10		10	

5. ジャガイモヒゲナガアブラムシ（大豆） 発生量 少

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町及び訓子府町で平年より少なかった。長沼町では寄生が認められなかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.0	1	2.7	0	3.2
2半旬	0	1.8	0	4.4	0.5	1.4
3半旬	0	0.5	0	7.8	0	2.8
4半旬	0	0	0	7.8	0	3.1
5半旬	0	0.3	0	3.6	0	1.1
6半旬	0	0.4	0	2.6	0	1.0
平年数	10		10		9	

注) 25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

6. マメアブラムシ（小豆） 発生量 やや多

< 7月10日付け注意報第6号 >

予察ほの小豆における寄生株率は、芽室町及び訓子府町で平年より高く、長沼町では平年より低かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	10.9	96	23.8	28	9.6
2半旬	0	10.7	84	29.2	52	12.8
3半旬	0	5.3	72	22.8	72	17.2
4半旬	0	0.9	56	16.4	44	18.4
5半旬	0	0	0	7.6	16	13.2
6半旬	0	0	0	3.6	4	10.4
平年数	9		10		9	

F. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 少

予察ほの「とうや」における初発期は、訓子府町では平年並、長沼町では平年より遅かった。北斗市及び芽室町での発生は確認されていない。発生量は、各地点とも少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、檜山及び十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	8月5日	7月15日	7
	スノーマーチ	8月5日	7月19日	9
北斗市	とうや	未発生	7月8日	10
芽室町	とうや	未発生	7月12日	10
	スノーマーチ	未発生	7月14日	10
訓子府町	とうや	7月16日	7月14日	8
	スノーマーチ	7月23日	7月16日	8

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0.2	0	0.7	0	6.6	0	22.6	-	39.4
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.9	0	5.9	0	17.5	0	30.6
北斗市	とうや	0	13.4	0	27.1	0	45.4	0	50.1	-	52.6	-	55.0
芽室町	とうや	0	0.7	0	4.3	0	10.8	0	24.2	0	50.9	0	61.1
	スノーマーチ	0	0.9	0	3.8	0	8.9	0	18.9	0	39.7	0	57.9
訓子府町	とうや	0	0	0	0.7	0.5	3.1	0.5	6.7	4.5	18.2	18.5	40.8
	スノーマーチ	0	0.1	0	0.6	0	2.7	0	5.4	2.5	12.6	20.0	33.8

注1) :-は茎葉の枯凋により調査不能

注2) : 平年数は10年

一般ほにおけるばれいしょの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	1.8
胆振	本所	2	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0	0
檜山	本所	2	5.0	13.0	5.0	13.0
	北部	2	3.5	0	5.0	0
上川	富良野	3	0	0	0	3.0
	大雪	3	0	0	0	0
	士別	1	0	16.0	0	50.0
	名寄	1	0	0	0	0

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	8	0	0	0	0
	清里	6	1.0	0	0	0
	網走	2	0	0	0	0
	美幌	2	0	0	0	0
十勝	本所	5	0	0	0	0
	東部	6	0	0	0	0
	東北部	1	0	0	0	0
	北部	3	0	0	2.3	0
	西部	2	0	0	0	0
	南部	7	0	0	0.6	4.1
釧路	本所	2	0	0	0	0
根室	北根室	1	0	0	0	0

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町、芽室町及び訓子府町いずれの地点においても平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、芽室町で平年よりやや少なく、長沼町及び訓子府で平年より少なかった。モモアカアブラムシは、訓子府町で寄生が確認されたが、その密度は低かった。長沼町及び芽室町では寄生が認められなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、多発生の目安となる20複葉当たり20頭の寄生頭数を越えたのは全67地点のうち、檜山、オホーツク地方の2地点のみであった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.6	0	1.9	4.8	4.9	0	3.1	0	0	2	3.8
2半旬	0	0.5	2	4.7	1.3	6.6	0.5	7.3	2.5	0.9	6.3	8.0
3半旬	1	0.4	0	6.3	0	6.2	1	11.7	0.5	0.1	1.6	17.6
4半旬	0	0.3	0	6.2	0	6.3	2.5	16.9	0.5	1.1	0.6	26.5
5半旬	0	0.1	0	4.8	0	4.7	1.5	8.6	0	2.9	0	50.5
6半旬	0	0	0	2.1	0	1.7	2	2.1	0	2.3	5.2	27.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	4	1.0	0.3	0.3	0	
胆振	本所	2	9.0	1.0	12.0	8.0	ワタ
渡島	本所	1	13.0	10.0	5.0	13.0	ヒゲナガ
檜山	本所	2	0	0	0	0	
	北部	2	0	1.0	156.0	6.5	ワタ
上川	富良野	3	0	0	0	0	
	大雪	2	0	0	0	1.0	
	士別	1	0	0	0	0	
	名寄	1	0	0	0	0	
網走	本所	8	4.5	8.3	5.6	11.1	ヒゲナガ、ワタ
	清里	6	0.2	5.5	2.0	3.3	ヒゲナガ、ワタ
	網走	2	0.5	0	0	0.5	ヒゲナガ
	美幌	2	0	0.5	0	0	
十勝	本所	5	0.4	2.0	0.2	0.4	ヒゲナガ
	東部	6	0	0	0	0	
	東北部	4	0	0	0	0	
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	2	0.5	0	0	0	モモアカ
	南部	7	4.3	0	3.0	0	ヒゲナガ
釧路	本所	2	0	0	0	0	
根室	北根室	1	0	0	2.0	0	ヒゲナガ

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

G. てんさい

1. 褐斑病 発生期 やや早 発生量 多

<7月5日付け注意報第4号>

予察ほにおける初発期は、芽室町の「あまいぶき」では平年より早く、長沼町の「あまいぶき」及び訓子府町の「ライエン」では平年よりやや早かった。発生量は、芽室町の「あまいぶき」及び訓子府町の「ライエン」では平年より多く、長沼町の「あまいぶき」では平年よりやや多かった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、石狩、後志、胆振、上川、オホーツク及び十勝地方で発生が認められ、全75調査地点のうちの56地点で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品 種 名 (褐斑病抵抗性)	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(弱)	7月2日	7月7日	0.4	1.0	1.2	2.9	15.6	10.9	10
	ライエン(やや強)	7月11日	7月8日	0	0.2	1.6	1.9	6.4	5.7	9
芽室町	あまいぶき(弱)	6月26日	7月4日	3.6	2.1	14.8	5.6	24.8	13.7	10
	ライエン(やや強)	6月27日	7月4日	7.2	2.2	18.8	5.1	30.0	8.9	9
	スタウト(強)	6月27日	7月6日	4.0	2.3	15.2	4.8	28.0	9.2	10
訓子府町	ライエン(やや強)	7月8日	7月11日	0.4	0.5	4.0	1.8	20.4	6.1	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	1.0
石狩	本所	3	0	0	1.7	0.7
後志	本所	3	0	0	1.3	6.0
胆振	本所	4	3.0	0	4.3	4.3
	東胆振	3	2.7	0.7	1.0	8.3
上川	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	3	0	0	0	0
	士別	1	0	0	40.0	1.0
	名寄	2	0	17.5	0	32.5

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	9	6.2	0	12.3	6.1
	清里	6	3.5	0.2	24.0	20.2
	網走	2	2.5	0	33.0	9.0
	美幌	5	0	0	3.2	0.4
	遠軽	3	0.7	0.7	4.0	9.3
十勝	本所	7	1.6	2.9	7.4	17.7
	東部	6	3.4	1.3	3.8	5.7
	東北部	4	2.0	3.0	7.3	18.0
	北部	3	5.3	0.3	37.7	53.3
	西部	3	1.0	0.7	7.0	13.7
	南部	7	0.3	0.7	3.6	6.4

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 並

予察ほにおける見取り調査では、食害程度は、芽室町及び訓子府町で平年並、長沼町で平年よりやや低かった。第2回成虫による産卵はいずれの地点においても確認されなかった。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、全75地点のうち被害株率が50%以上となったのはオホーツク地方の計5地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	食害程度						卵塊数(50株あたり)					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	20	26.4	21	15.3	3	2.7	0	0.2	0	0	0	0
2半旬	30	37.1	24.5	20.0	6	5.6	0	0.4	0	0	0	0
3半旬	34	48.4	27.5	25.6	12	9.2	0	0.2	0	0	0	0.1
4半旬	38	53.0	28.5	30.1	13	13.4	0	0	0	0	0	0
5半旬	41	58.4	34.5	33.4	17	18.1	0	0	0	0	0	0
6半旬	44	60.3	36	35.0	18	20.9	0	0.5	0	0.1	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	2.0	0	0	0
石狩	本所	3	2.7	16.7	8.7	18.0
後志	本所	3	2.0	1.7	3.0	6.0
胆振	本所	4	0	6.0	0.5	6.0
	東胆振	3	12.7	9.7	15.0	7.3
上川	富良野	2	2.0	3.0	2.0	0.3
	大雪	2	2.0	1.3	1.0	1.0
	士別	1	4.0	20.0	1.0	25.0
	名寄	1	25.0	51.0	6.0	22.5

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	9	36.4	9.4	9.0	7.0
	清里	6	20.3	52.0	10.3	14.8
	網走	2	14.0	21.0	11.5	24.0
	美幌	5	5.2	14.2	4.4	12.8
	遠軽	3	6.7	14.7	11.0	10.3
十勝	本所	7	4.7	23.0	3.6	17.9
	東部	5	0	7.7	0.4	1.5
	東北部	4	12.5	18.8	13.8	7.8
	北部	3	7.7	5.0	13.3	7.0
	西部	3	4.3	6.0	1.7	6.7
	南部	8	6.6	18.9	5.1	3.6

H. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 やや多

予察ほにおける発生量は、訓子府町では平年より多く、長沼町では平年よりやや多かった。
一般ほにおける巡回調査の報告によると、空知、上川、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		7月2半旬		7月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	29.5	33.9	70.0	49.0	10
訓子府町	北もみじ2000	6.0	3.8	12.5	7.3	10

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	5	0	0	3.2	41.2
	南東部	3	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	1.7	0
	中空知	1	42.7	22.0	42.7	28.0
石狩	北部	2	0	0	0	0
上川	富良野	4	0	0	0	0
	大雪	1	0	0	0	0
	士別	1	7.5	0	6.5	1.0

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	8	3.3	0.8	6.6	4.0
	清里	2	16.0	2.0	38.0	38.5
	美幌	4	0	0	0	0
	遠軽	1	1.0	0	8.0	13.0
十勝	本所	3	0	0	4.0	2.7
	東部	2	0	2.0	0	2.5

2. ネギアザミウマ 発生量 やや少

予察ほにおける寄生虫数は、訓子府町で平年よりやや少なく、長沼町では少なかった。被害程度は、訓子府町で平年並、長沼町では平年より低かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、全43地点のうち、寄生株率が50%以上となったのは空知、上川、オホーツク地方の7地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	成虫数(25株あたり)				幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	60	87.3	160	77.9	19	203.5	1057	1077.3	29	37.3	64	65.7
2半旬	76	139.0	96	134.9	155	444.7	1068	1102.4	32	47.5	87	76.5
3半旬	106	148.3	24	132.1	911	755.5	1165	1419.4	38	57.1	93	86.6
4半旬	-	178.0	64	116.3	-	1545.3	1581	1448.9	-	64.7	94	92.8
5半旬	-	163.0	33	89.8	-	605.3	129	941.4	-	68.8	100	95.2
6半旬	-	41.6	71	72.8	-	76.5	132	1243.9	-	40.5	100	96.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) -:倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及 センター		地点 数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	5	21.6	69.8	64.0	87.2
	南東部	3	52.0	73.0	22.7	75.3
	南西部	3	51.0	41.3	29.0	17.3
	中空知	3	0	42.0	0	20.0
石狩	北部	2	9.0	18.5	7.5	24.0

普及 センター		地点 数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
上川	富良野	4	6.0	24.0	8.0	21.3
	大雪	1	15.0	20.0	20.0	30.0
	士別	2	5.0	94.0	100.0	90.0
	網走	本所	8	23.8	40.0	20.8
	清里	2	82.0	100.0	98.0	100.0
	美幌	4	5.0	2.3	4.5	1.0
	遠軽	1	6.0	17.0	5.0	37.0
	十勝	本所	3	21.3	41.3	12.0
	東部	2	36.0	45.0	0	59.0

I. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年並であった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	1.0	28	19.0
2半旬	51	29.8	45	41.6
3半旬	78	46.2	48	71.7
4半旬	72	67.9	96	76.3
5半旬	8	45.9	55	72.4
6半旬	12	28.1	8	37.7
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

2. コナガ 発生量 やや多

<7月10日付け注意報第5号>

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、北斗市及び芽室町で平年より多く、長沼町及び訓子府町で平年並、比布町では平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、北斗市では平年よりやや少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	51	42.3	2	15.6	351	52.5	29	5.1	5	4.1
2半旬	47	70.4	3	20.4	113	54.2	12	3.5	5	2.1
3半旬	126	109.4	1	12.9	172	67.4	10	2.6	4	3.8
4半旬	41	105.0	2	11.3	166	57.4	16	5.0	4	3.5
5半旬	36	68.1	4	9.7	73	49.8	18	2.8	3	4.4
6半旬	62	90.9	4	5.9	15	61.3	7	2.1	2	4.8
平年数	10		9		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜は場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	12	8.1
2半旬	12	7.8	26	16.3
3半旬	137	27.1	55	58.0
4半旬	476	105.4	86	101.3
5半旬	225	133.6	39	125.1
6半旬	24	83.4	3	90.9
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

J. りんご

1. 黒星病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）での発生量は平年よりやや少なかった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。一般園における巡回調査の報告によると、発生は認められていない。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	22.9	35.2	33.4	45.9	37.1	51.2	7

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	昂林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0.4
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生期 遅 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）における発生期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。余市町の予察園（慣行防除）では新梢及び徒長枝のいずれでも発生は認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、胆振及び渡島地方で発生が認められている。

予察園（長沼町）における斑点落葉病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	王林	7月31日	6月25日	10

長沼町の予察園(無防除)におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	0	1.4	0	1.9	0	2.3	10
王林	徒長枝	0	0.7	0	1.1	0	1.6	10

余市町の予察園(慣行防除)におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	新梢	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
昂林	徒長枝	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	16.7	0
渡島	本所	1	13.9	33.2
留萌	南留萌	1	0	1.0

3. ハマキムシ類 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによる誘殺数は、リンゴコカクモンハマキは長沼町及び余市町Bで平年よりやや少なく、余市町Aで平年より少なかった。リンゴモンハマキは長沼町で平年並、余市町A及びBでは誘殺は認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、リンゴコカクモンハマキは七飯町で平年よりやや多く、岩見沢市、札幌市、壮瞥町及び増毛町で平年並であった。石狩市では誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキは岩見沢市及び七飯町で平年よりやや多く、札幌市、石狩市及び壮瞥町で平年並であった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	5	6.2	0.3	1.3	0.7	1.4	8	4.8	0	1.6	0	0.6
2半旬	1	5.4	0	0.2	0.6	1.2	7	10.1	0	1.0	0	0.2
3半旬	1	1.9	0	0.1	1.7	0.5	1	4.4	0	0.8	0	0.2
4半旬	0	2.2	0	0.0	0.3	0.8	0.3	3.0	0	0	0	0.1
5半旬	0	0.2	0	0	0	1.6	0.7	1.3	0	0	0	0.3
6半旬	2	0.1	0	0	0	0.9	2	0.8	0	0	0	0.1
平年数	10		10		10		4		4		4	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.7	0.8	1.8	2.4	0	0.2	0	0.4	3.7	3.9	0.7	0.4
2半旬	0.7	0.5	0.8	1.8	0	0.5	0	0.2	3.6	1.6	0.3	0.2
3半旬	1.1	0.2	0.6	1.2	0	0.0	1	0.1	1.7	0.3	0	0.1
4半旬	0	0.4	0.1	0.4	0	0.4	0	0.1	0.3	0.3	0	0.1
5半旬	0	0.1	0	0.2	0	0	0	0.1	0.7	0.2	0	0.1
6半旬	0.3	0.1	0	0.4	0	0	0	0.1	1.6	0.4	0	0.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	0.3	5.3	2.2	0	0	0	0	2.6	1.5	0	0.1
2半旬	1.4	0.4	3.8	2.5	0	0.5	0	0.2	2.9	0.3	0	0.2
3半旬	0.3	0.1	0.6	2.8	0	0.5	1	0.4	0	0.3	0	0
4半旬	0	0	0.7	1.2	0	0.5	0	0.5	0	0.8	0	0
5半旬	0	0	0.4	2.5	0.1	0.3	0	0	0	0.1	0	0
6半旬	0.6	0.0	0.3	1.0	0.9	0	0	0.3	0	0.1	0	0
平年数	4		4		4		4		4		4	

4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町、余市町A及びB（慣行防除）いずれの地点においても平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年より少なかったものの、被害果率の上昇は平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、札幌市、壮瞥町及び増毛町で平年並、七飯町で平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	29	32.3	4.0	9.8	23.3	22.8	20	32.3	0	1.0
2半旬	41	58.8	3.8	11.7	26.9	23.5	104	39.7	20	10.3
3半旬	68	67.7	18.3	16.3	27.5	27.6	58	133.7	45	41.0
4半旬	171	137.9	19.1	20.2	40.4	35.2	75	207.3	90	73.3
5半旬	158	121.9	21.2	28.2	47.5	40.9	97	156.3	99	96.0
6半旬	89	160.1	23.6	39.1	51.8	59.0	84	178.5	100	99.0
平年数	10		10		10		10		10	

注）余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7.1	3.3	24.3	17.4	5.5	4.1	2.4	1.4	0	0.0
2半旬	10	7.8	36	25.9	7.5	6.0	5	3.1	0	0.2
3半旬	15	10.5	42.5	36.0	8	7.4	5	7.6	0	0.2
4半旬	10	15.3	46.2	33.3	4.3	9.5	8.4	18.2	0.7	0.3
5半旬	12	19.5	38.0	31.4	5.5	7.3	8.9	37.1	1.1	0.5
6半旬	13.4	22.9	31.3	34.8	6.3	8.9	10.7	63.6	1.1	0.5
平年数	10		10		10		10		10	

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リングハダニ及びナミハダニはいずれの地点においても発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リングハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0.8	0	5.2
2半旬	0	0	—	0	—	0	0	0	—	0.9	—	1.0
3半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
4半旬	0	0	0	0	0	1.8	0	0	0	0.9	0	6.5
5半旬	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	2.6	0	2.7
6半旬	0	0	0	0.1	0	1.7	0	0	0	3.9	0	4.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町Aで平年並、余市町Bで平年よりやや少なく、長沼町で平年より少なかった。被害葉率は、長沼町で平年よりやや高かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市で平年よりやや多く、石狩市、七飯町及び増毛町では平年より少なかった。札幌市及び壮瞥町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	8.9	27.9	33.4	1.1	49.6	0	0.5
2半旬	0	8.4	43.1	32.9	0	47.9	0.5	0.3
3半旬	0	7.1	53.3	32.9	5	39.3	0.3	0.1
4半旬	3	7.8	22.7	40.0	53.6	40.6	1.0	0.1
5半旬	5	7.9	18.7	34.1	104.8	95.5	1.8	0.7
6半旬	1	13.9	34.5	64.9	174.4	274.2	2.3	0.7
平年数	10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

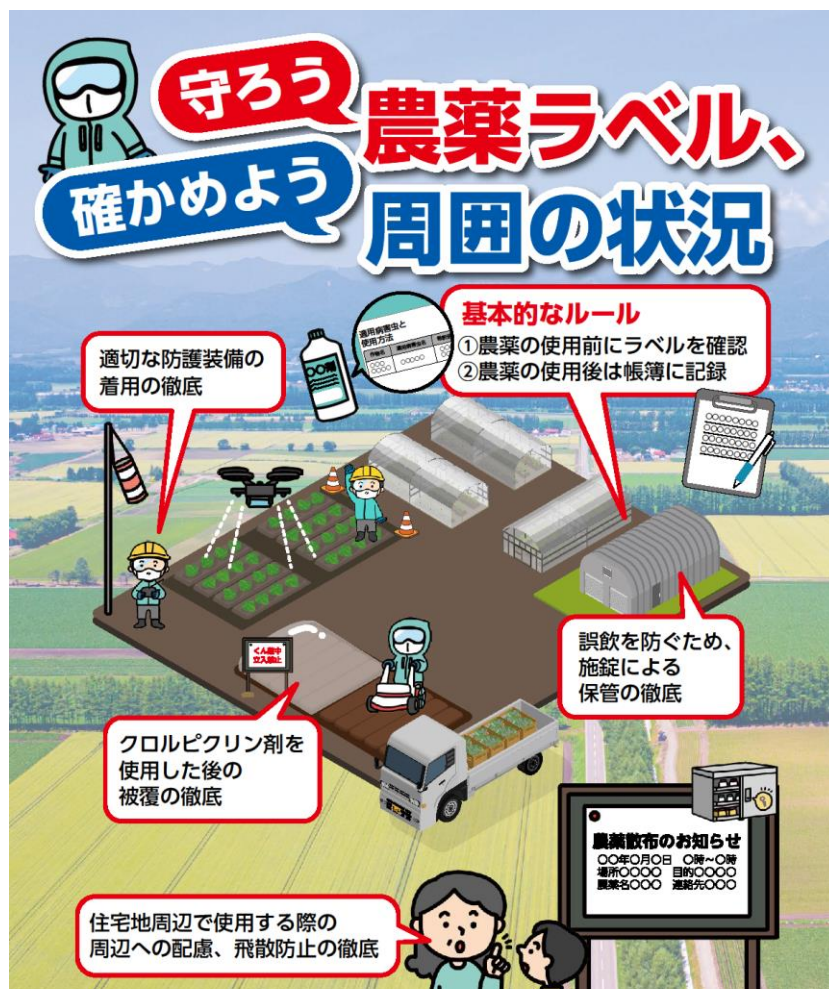
一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	6.6	14.5	0	0.6	0	17.4	0	41.8	1.1	26.2	26.4	129.6
2半旬	7.1	14.6	0	0.5	0	29.7	0	58.5	2.9	22.1	23.7	118.1
3半旬	5.4	17.2	0	0.7	0.4	35.2	0	44.7	0	5.8	21.9	88.6
4半旬	5.8	7.5	0	0.4	1.6	40.7	0	37.8	2.9	7.8	22.9	74.7
5半旬	35.2	5.5	0	0.3	0	30.7	0	16.9	2.1	7.5	19.4	59.8
6半旬	46	8.0	0	0.8	0	10.8	0	35.3	1.7	19.0	29.0	63.4
平年数	10		10		9		10		10		10	

令和 6 年

6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。



https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/

農薬の適正使用 農林水産省

検索



令和6年度農薬危害防止運動 農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

北海道

令和6年6月1日～8月31日

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法などについては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

URL <https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課